

epoch

エポック No103

～千代田区生涯学習推進委員会議だより～

平成29(2017)年 12月 発行

第11期第8回 会議要旨

平成29年10月20日(金)、第8回生涯学習推進委員会議が開催されました。

今回は、「ちよだ生涯学習カレッジ」の2年次に進級した第1期生と新たに入学した第2期生の在籍状況などを報告をしたのち、「千代田区生涯学習連絡会」の実施報告、そして今期のテーマ「学びを紡ぎ地域を結ぶネットワークづくり」の実現に向けて自由に意見が交わされました。



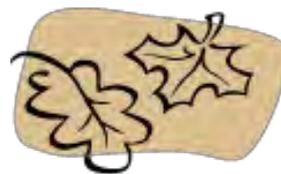
「ちよだ生涯学習カレッジ」の報告

進級及び入学等の報告について

- 第1期生は、昨年の入学時の人数は35名。そのうち26名が2年次へ進級した。進級しなかった理由は、家庭の都合や転勤などの仕事の都合が7名。授業のレベルが合わないという人は1名。
また1名は1年次の出席授業数が少なかったことを理由に、第2期生と一緒に、再度1年次の授業を受けることを希望した。
- 第2期生は、2次募集も行い、計19名が入学。今回も1名モニターコース経験者からの応募があった。
入学は19名だが、第1期生から編入する1名が加わるので、授業に出席する人数は20名となる。
- 第1期生・第2期生ともに授業が始まった。
欠席者はいるものの、いずれも事務局に事前連絡が入っている。

第2期生の募集について

- 第2期生の募集について、当初の募集期間までの申し込み数が少なかったため、2次募集を実施した。計19名の申し込みがあり、選考の結果、全員の入学が決定した。
- 募集に対して申し込みが定員割れしたことを踏まえ、来年へ向けて広報PR活動を充実していく一環として、この度「ちよだ生涯学習カレッジ」のフェイスブックを開設した。また、入学募集時期については今年より早める。そして、オープンカレッジや授業の参観など、ちよカレに興味を持っていただける取り組みを進め、学生の確保を図っていく。



第1期生(2016年入学)	35人
第1期生(2017年進級)	26人
第2期生(2017年入学)	19人
(第1期生から編入)	1人

「学びを紡ぎ地域を結ぶネットワークづくり」



① 千代田区生涯学習連絡会の実施報告

- ・実施日 平成 29 年 9 月 15 日（金）
- ・議題 (1) 千代田区生涯学習連絡会の目的について
(2) 出席者自己紹介
(3) 千代田区生涯学習連絡会に関するアンケート結果について
(4) 情報交換
- ・アンケート結果（全 19 機関）
 - 地域活動に参加する人の受け入れ
 - ・可能性がある 11 機関 /可能性はない 2 機関 /どちらともいえない 6 機関
 - 生涯学習活動に活かせる他の機関と連携・協力
 - ・図りたい 7 機関/検討中 3 機関/不明または未記入 9 機関
 - 意見等
 - ・年 4 回程度の定期的な開催を希望
 - ・出張所の参加は代表して 1 所のみでよいと思う
 - ・MIW も構成団体に加えてほしい
- ・情報交換
 - ・かがやき大学には多くの高齢者が受講している。チラシ配布などの際には活用いただければ、との提案があった

実施報告を受けて、事務局から

意見交換

- 「地域活動に参加する人の受け入れの可能性なし」と回答した中には、「学びと地域のコーディネーター」としてどのようなスキルやポテンシャルを発揮してくれるのかわからない、という意見があった。具体的にカレッジ卒業生の参画を考えると上では、卒業生の能力についてもう少し見える化が必要である。
- 今後、地域のご意見やニーズをどのように情報収集してフィードバックしていくか、連絡会の回数を重ねながら深めていきたい。



- 「出張所の参加は代表して 1 所でのよいのではないか」という意見について、出張所は「出先機関の代表」として捉えている可能性がある。こちらとしては「町会等の各地域をとりまとめる機関」として出席していただきたい旨を、改めて説明する必要があるのではないかと。
- ちよカレの学生の中で町会との関わりがある方はどれくらいいるのか。ちよカレと町会をつなぐ役目を出張所に果たしてもらいたい。そうすれば町会非加入の新規住民とのつながりが作れると思う。
⇒町会をテーマに挙げている学生は何人かいる。世代交代や新旧住人の問題を解決できるようなコーディネーターを養成していきたい。

② テーマについて自由討論

ちよカレ内の交流

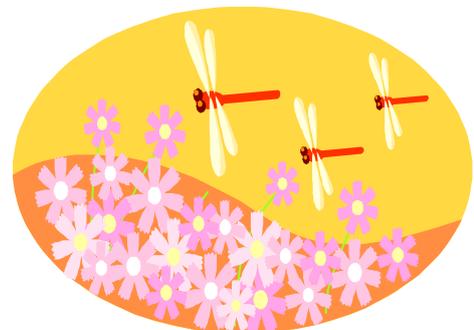
- 第1期生と第2期生が交わって催し物をする機会はあるのか。
⇒第2期生にとって初めての自主活動（委員会活動）が10月31日にあり、ここで一部の学生は第1期生と交流ができる。
来年3月4日のオープンカレッジでは、第1期生を中心に第2期生とも交流をするプログラムを考えている。
- ちよカレ内のつながりは非常に大事だと思う。在校生と卒業生のが、同窓会みたいな形で何かできるとよいのではないか。
- 第1期生と第2期生を合わせて、年齢で分けてグループを作ってみても面白いのではないか。年齢によって人生経験も違うし思い描いているビジョンも違うので、同じテーマで研究しても全くちがう結果になると思う。

学生自身からの発信

- 第1期生が発信する機会はあるのか。
⇒3月のオープンカレッジでは、学んできたことをパネルのようなものにして発表したいというアイデアが出てきている。
卒業後の活躍については、考えながら2年間過ごすことをテーマとしている。オープンカレッジで発信することを学んだ後、ゼミ方式で学んでいく予定。
⇒事務局としては、学生たちの声をこの会議体で紹介できるようにしていきたい。

企業や地域とのネットワーク

- 勤め先は大きな会社で社会活動に力を入れているのに、ちよカレを知っている人に出会ったことがない。近年の風潮から、大小関わらず企業は社会活動に関心を持っているはず。思いは一緒なのだが、情報がうまく結びつかず、実現していないと感じる。
- 地域から欲しい人材、必要なスキルなどの情報があれば、要望に応じた授業を組み立てることもできるかなと思う。
- 地域と企業の関わりは、地元の小さな情報から始まると思う。ある企業は、地元の餅つきの際には場所を提供してくださり、年2回の地域清掃やたばこパトロールにも参加してくださっている。このような小さな協力を得るためにも、地域に根差す出張所に、地域の小さな声を吸い上げてもらう必要がある。
- 企業の人事担当の方にちよカレの受講生になっていただき、千代田区の社会活動についてなどの知識をつけてもらってはどうか。どこかの企業で仕事にフィードバックできたと実績がでたら、おもしろいことになると思う。



(番外)

ちよカレのオープンカレッジについて

○オープンカレッジの会場が九段生涯学習館のレクリエーションホールだと、6階まで見に行く人はあまりいないので、「オープン」な感じがしない。作品展のようにもっと人目につくところでやるとか、パネルをオープンカレッジ後も展示できるところに飾っておくと、もっと多くの人にちよカレの活動が伝わるのではないかな。

○公開講座みたいなものやってみるとよいのではないかな。例えば区民ホールならば、たまたま区役所に立ち寄った際にも見たり聞いたりするため、見学をするためのハードルが下がる。短縮版の授業をやって授業紹介みたいな形もよいと思う。

○オープンカレッジの「オープン」をどう担保するのか、より多くの人に見てもらうためにはどうしたらいいのかを学生自身に考えてもらってはどうか。

編集後記（事務局より）

第11期第8回のエポックをお送りいたしました。今回は自由討論もあり、あついご意見が交わされた様子をお届けできたのではないのでしょうか。

ご多忙の中、リレー随筆をお引き受けいただいた杉森委員、心から御礼申し上げます。

次号エポックも、よろしく願いいたします。

【編集／発行】

地域振興部 生涯学習・スポーツ課

〒102-8688 千代田区九段南1-2-1

TEL：03-5211-3632

FAX：03-3264-1466

Email：shogaigakushuu@city.chiyoda.lg.jp

リレー随筆 No.12

「人と共に学ぶ喜び」

杉森 一恵

小・中・高・大という学生時代の学びは、「後学」のための性格が強いが、生涯学習は、まさに生き方や現代社会に直結した「今学」と考えている。グローバル化が進み、インターネットでリアルタイムに情報が得られる現代、「学び」ということだけでいえば、いつでもどこでも学べる環境は整い、自学自習で知識を十分に得られる。ではなぜ千代田スタイルの「ちよカレ」が求められたのか。

私はちよカレ開設のモニターコース「生涯学習大学 生涯学習コーディネーター養成～体験編～発信力」を受講した。年齢・経歴がさまざまな受講生。座学以外にグループワークがあることに最初はとまどいと不安があったが、前半の講義で、「他者を尊重すること」「“違い”が“何故？”という新たな疑問を生み、それを知ることで新たな“学び”が生まれる」ことを学んだ。そしてそれを意識しながら後半のグループワークに臨んだことによって、不安は「違いを楽しむ気持ち」へと変化し、最後にはメンバーと離れるのは寂しいとまで感じるようになった。このような知識を超えた学びは人が集って学ぶ形でないと得られない。生涯学習、特に人と人を結びつける「コーディネーター」という分野では、共に学ぶスタイルにこそ意義があると実感した体験となった。

ちよカレの学生が、共に学ぶ中から喜びを感じ、その喜びを力にして、様々な形で生かしていけるよう今後も議論を進めていきたい。

